

第 1 1 5 号 2 0 2 6 年 4 月 1 日

発行所／神山復生病院 〒412-0033御殿場市神山109 (Tel)0550-87-0004 (Fax)0550-87-5360
(E-mail)info@fukusei.jp (ホームページ) <https://www.fukusei.jp/>



《 理 念 》

神山復生病院は キリストの愛に基づいて 病める人も健やかな人も 神によって創られた人間として
喜びも苦しみも共にしながら 一人ひとりの命を大切にし 希望をもって医療と福祉に献身します

復活の桜

復生記念館 学芸員 森下裕子

春本番、院内の庭の花も一斉に咲き始めました。一昨年、修道院横の通りの桜の木が伐採されました。病気になっていることがわかり、倒木の危険もあり通行される方の安全を第一にとのことからですが、復生病院の春の名所でもあった桜のトンネルがなくなり、寂しい思いをされた方も多かったのではないのでしょうか。

あれから 2 年切り株から枝が伸び今年花が咲きました。数えるほどですが、復活したようでうれしく思いました。

開いた桜を見て、復生病院で働かれていた井深八重さんを感じました。ご存じの方も多いかと思いますが、大正 8 年当時長崎の女学校で英語の教師をしていましたが、ハンセン病ということで復生病院に入院、その後その診断が誤診だったことがわかります。退院することもできましたが、ここにどまり看護婦の資格を取り、ハンセン病の患者さんに寄り添いつづけた方です。

井深さんは自分のことを多く語らなかったので、謎が多い方でもあります。その中でも常々疑問に感じていたのが、福岡の大学病院でハンセン病の疑いがあると診断され、他の病院で診断を受けなかったのか、疑いだけで復生に入院したのかということでした。当時は家族にハンセン病の人が出るとその家系までが穢れたものといわれた時代なので、仕方がないかと考察していました。

しかし、昨年叔父の井深梶之助の日記（大正編）が書籍として発行され当時の様子が記されていました。（井深梶之助は明治学院の総理（学院長）で、明治時代キリスト教教育界の中心的人物といわれています。井深さんは家庭の事情から幼いころから梶之助のもとで育ちました。）福岡での診察を受け長崎から帰京するまでの 1 か月半の間に、親族会議を重ね、身内の医師などに相談、ハンセン病が確定したときの行き先（復生病院）を探し、戻ったらすぐに当時最新鋭の西洋式病院の診察を受ける準備をしていました。帰京後その病院の診察を受け、専門病院を紹介されそこでハンセン病との診断を受けたようです。この日記から井深さんがハンセン病の疑いをうけ、復生病院に来た経緯がわかり、疑問を解くことができました。100 年以上前のことがわかったことに驚き、感動しました。この日記はまだまだ読み解いている途中ですが、この先新たにわかることもあるかもしれません。小枝の桜の花が咲いたようにワクワクを期待しています。そして記念館をお越しの方々にそれらをお伝えできたらうれしいです。



令和7年度 神山復生会 成果・研究発表会



3月12日に令和7年度神山復生会 成果・研究発表会が行われました。皆さん日常の業務で忙しい中課題に取り組み、その成果を発表してくださいました。

「ホスピス病棟看護師のストレス軽減に対してのアロマセラピーの有効性」

ホスピス 石田圭美

今年度の研究は日々の業務や生活によるストレスが少しでもアロマセラピーによる効果で改善できればと思い、病棟スタッフに対して、アロマウッドを使ったアロマセラピーを実施しました。ほとんどの看護師がアロマセラピーにより、リラックスできた・仕事の癒しになったとアロマによる効果を実感してくれました。今後はスタッフだけでなく、患者様やご家族様にも看護のケアだけでなく、アロマによるリラックスや癒しを感じてもらえるケアが出来るよう考えていきたいと思ひます。

「外来における在宅支援に向けたスクリーニングシート導入と運用の評価」

在宅支援 松永悠依

今回、外来で在宅支援が必要な患者様を早期に把握するためにスクリーニングシートを導入しました。導入により患者情報を共有しやすくなり、支援の必要性をスタッフが同じ視点で考えられるようになりました。今回の取り組みにより、在宅支援への意識向上につながったと考えます。今後は病院全体で支援体制の充実を目指していきたくひです。

「身近にあるサイバー攻撃の種類と対応」

庶務 後藤和也

一昨年に引き続き、サイバー攻撃に関する内容を取り上げました。皆さんがスマートホンやパソコンを利用する中で、身近にどんなサイバー攻撃が潜んでいるのか、見分ける方法、対応方法を知っておいていただくことは、病院を守るだけでなく、皆さん個人の生活を守ることに繋がりまひす。

安心、安全なインターネットの利用ができるよう、今後は定期的に勉強会の場を設け、情報共有を行いたくひと思ひます。

「訪問看護の実績報告」

訪看マリア 仲道由美子

令和2年11月に訪問看護ステーションマリアの管理者となり、これまでの実績報告を行いたくひと考えておりました。平成29年に開設してから令和8年4月に10年目を迎えます。全国的には、訪問看護の事業所は増えていまひすし必要度も高いのですが、御殿場市や小山町の地域性によるマイナスの現状についても報告することができました。訪看マリアが開設当初より大切にしてきた考えや、復生会の理念に基づきこれからも皆様に選んでいただけるステーションでありたくひと思ひます。

「あなたの知らない夢の世界」

ホスピス 大嶋としえ

私たちは4歳頃から夢を見始めまひす。最近では夢を見ないという人も多いのですが、日常が忙しひ、睡眠が十分でないと夢は記憶に残りまひせん。夢に意味は無ひと考える人も多いのですが、夢は現実を乗り切るアイデアや知恵や自分の姿を夢物語として伝えてきまひす。

患者様も夢を見まひす。ケアに携わる者として、夢の歴史、人間の意識、夢の種類、対話と傾聴などの知識を得て夢を活用できるようにしまひす。ケア対象者とは患者様やその家族、妻や夫、子供や親や友人など全ての人です。夢を通じて自分の姿を知り心と体を整えて仕事に向き合ひまひしょう。

発表者の皆さん





「プロセスレコードを用いたOJTによる認知症ケアにおける職員の かわり方の変化について」

介護医療院 小澤一代

今回の成果発表を通して、日々の関わりやケアの積み重ねが利用者様の安心や生活の質の向上に直結していることを改めて実感しました。

多職種が共通の目標を持ち連携することで、よりよいケアが実現できることを再認識するとともに、理念に基づいた実践の重要性を深く学ぶ機会となりました。今後も学びを現場に還元し、質の向上に努めていきたいです。

「私の自論」

マリアの家 小野 雄大

神山復生病院は 136 年という歴史があり、色々なドラマが存在します。私が神山復生会に就職するきっかけになった人物「井深八重」が神山復生病院で看護師をしておりました。

彼女は「日本のマザー・テレサ」と呼ばれ、自らがハンセン病の誤診を受けたことがきっかけとなり、復生病院で生涯をハンセン病患者に献身しました。私が高校生？くらいの時、日曜日の 21 時より日本テレビで「知ってるつもり？」という番組があり、特番でマザー・テレサと一緒に井深八重について放送していました。エンディングで関口宏が、「パンへの飢えがあるように豊かな国にも愛情を求める激しい飢えがあります。誰からも愛されず必要とされない心の痛みです。与えてください。あなたの心が痛むほどに・・・。」とマザー・テレサの言葉を朗読し番組は終了しました。その時、井深八重の存在も初めて知りました。また、その言葉を聞いた時、なぜか心に電流が走るような衝撃を受け涙したことを今でも忘れません。井深家は、会津戦争で有名な会津藩出身で会津九家の一つです。八重の座右の銘が「一粒の麦」だったそうで、井深八重の墓標にも「一粒の麦」と書かれています。一粒の麦は芽を出し踏まれて強くなり成長し、たわわに実りその穂を落とし更に芽を出す。小さい事柄も努力しへこたれず、貫けば芽を出すことができる。と理解しています。他病院に入院し、母が他院に入院中、叔父が他施設にて他界した経験を持つ私は思うことがあります。神山復生会職員は、マザー・テレサのいうように粉骨砕身まさに「心が痛むほどに・・・」献身していると・・・。

その姿勢こそが、激動の 136 年間というハンセン病の理解も薄い時代に献身してきた歴史を持つ、神山復生会のあるべき姿だと思います。会津武士道、什の掟「ならぬことはならぬことです」という正義の信念を貫き、患者様・利用者様・地域の皆様すべての人が「幸福」で居られるように献身していきたいです。



今回のおすすめ

『 夢酔独言 (むすいどくげん) 』



講談社学術文庫

私が憧れる歴史上の人物は、大石内蔵助・武田信玄・武田二十四将の甘利左衛門尉晴吉・勝海舟とその父、勝小吉です。小吉は晩年「夢酔」と号し江戸でも指折りの剣客として知られ、直参の家柄ながら 40 俵無役。(現在の年収で言えば 100 万円程度)アウトローな生涯で、罪を憎んで人を憎まず。都々逸の「土手の芝、人に踏まれて一度は枯れる。露の情けでよみがえる」の文句のように厳しくもあり情けに深い、まさに江戸っ子気質の人でした。江戸患い(脚気)で 49 年という短い生涯でしたが、息子の海舟は父親の影響を大きく受けていました。晩年まで字を書けなかった小吉が、子孫たちに「自分ようになるな!」という遺言のために筆を執った自伝です。小吉には文才はなく江戸弁で書かれた文章は本当に読みにくい。しかし放蕩無頼の生活ぶりは非常に生々しく、また清々しいほどにいさぎよい生き方は、感動を覚えます。私もかくありたいと思います。是非ご一読ください。

(紹介者 マリアの家 小野雄大)



内科外来担当表

緩和ケア外来は予約制



	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前	江藤秀顕	吉津紗綾香	江藤秀顕	江藤秀顕	吉津紗綾香	江藤秀顕 (第1, 3, 5週) 第2, 4週休診	休診
午後	休診	休診	休診	休診	休診	休診	休診

肺炎球菌ワクチン・带状疱疹ワクチン接種の予約を承っております。



小規模多機能型居宅介護事業所 マリアの家 見学に来ませんか？

歌ったり、独自のゲームで楽しんだり、自然豊かな敷地内を一緒に散策しませんか？
皆さんが楽しめるレクリエーションを計画・実施いたします。まずはお気軽に遊びに来て下さい。
また、介護保険について・介護相談・高齢者一人暮らし中の不安など、お気軽にご相談ください。
通い・宿泊・訪問介護 随時お受けいたしております。



連絡先

〒412-0033 御殿場市神山 738-44

☎0550-87-3880 FAX0550-87-3887 担当 小野・衛藤



おりがみひろば

3月20日に「おりがみひろば」を開催しました。外来受付のご自由にどうぞのおりがみが、通院患者さん、入院患者さん、入所者さんとご家族にも好評で、皆さん関心があるということで、一緒におりがみを折る機会を持ったら楽しいひと時を過ごせるのではと、初めてこういった会を開きました。

この日は立体的なチューリップを作ろうと、入院患者さんのご家族、職員、入所者さんなど10名の方が集まってくださいました。最初は難しく作れないと言っていましたが、担当の職員が大きなおりがみで見本を見せながら一緒に折り進め、皆さんかわいらしいチューリップを作ることができました。

これから定期的には開催したいと考えていますので、その際は皆さまのご参加をお待ちしております。また次回のリクエストがあったら寄せていただきたいです。



(記念館) 森下裕子

編集後記



3月になり暖かい日が続き、時の栖の河津桜が咲き、桜を見に多くの方が訪れていました。中旬になり寒い日が続いていましたが、お彼岸が近づくにつれ寒さが和らぎ「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉の通りに御殿場にも春がやってきました。今年も院内の桜が次々と咲きます。ぜひいらしてください。次号もお楽しみに！